

# 「まいにち笑顔 みんなが笑顔」

## ミラノ・コルティナ冬季オリンピック



今月7日にイタリアで開幕したミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが、昨日、閉会式が行われました。日本は冬季オリンピックで24個のメダルを獲得し、過去最多の記録を達成しました。メダルを見れば、初出場で獲得した選手や、悲願の初メダル、悔し涙のメダルなど、一つ一つにドラマがありました。でも、メダル以上に記憶に残る競技がいくつもありました。

女子スピードスケートの高木美保選手は、今大会3個の銅メダルを獲得したものの、前回、前々回で銀メダルだった自身が世界記録をもつ1500mでの金メダルを目指していましたが、6位に終わりました。ただし、1位の選手との差はわずか0.77秒です。1秒もないのです。皆さん、1秒を数えてみてください。1・2・3、この1秒の間に何と9人もの選手がいるのです。

男子スキークロスに出場した古野慧選手は、日本人として初めて決勝に進出したものの、ゴール前で伸ばした手の差、わずか0.1秒の差で4位になり、メダルの獲得には至りませんでした。

高木選手にしても古野選手にしても、その1秒のために必死に練習に励んできているのですが、そこで勝ち切ることがどれだけ至難の業か、世界で戦うアスリートの体力はもちろん、精神力の強さに驚かされます。

そしてもう一人。スノーボード女子パラレル大回転の竹内智香選手は、2002年ソルトレークシティ大会で初出場を果たしてから、2014年ソチ大会ではスノーボード日本人女性初のメダリストになり、引退を表明している今大会まで7大会連続で出場をしています。24年もの間、日本のトップとして世界で活躍し続けることも圧巻です。その挑戦し続ける姿は、日本のスノーボード界を開く存在でした。

紹介すれば仕切れないほど、日本の選手の頑張りに感動をしましたが、競技後のインタビューでどの選手も共通して言っていたことがあります。それは、応援してくれている人への感謝です。その後押しがあってここまで来られたと。そして、一番近くで応援している人が、一番、選手と同じ感動を味わっていることも分かりました。

スポーツはする人だけでなく、支える人があって成り立っているのです。それは、スポーツ以外でも同じことが言えると思います。自分が頑張っていること、友達が頑張っていることでも、お互いが支え合うことでいつか、目標を達成し、メダルを得ることができるはずです。3月からはパラリンピックが始まります。こちらは人間の無限の可能性を感じることができるので、是非、見られる人は見てください。